

事業報告書

事業名

「森林資源(山の恵み)を様々な活用して、青梅の森林・林業を元気に」



- 1 実施団体 3世代先につなげる里山生活協議会

- 2 担当課 農林水産課

- 3 実施時期 平成30年6月1日～平成31年3月31日

- 4 参加者 都市住民・地元住民の方で、森林・林業に興味のある方

- 5 実施場所 青梅市内山林

- 6 事業の目的 青梅市内の半分以上ある63%の森林の活用

7 役割分担

●団体の役割

- ・ 森林資源を活用する体験イベントの運営
- ・ 森林資源を活用したものづくり
- ・ 都市住民へのPR

●担当課の役割

- ・ 山林情報の提供
- ・ 森林所有者とのマッチング
- ・ 市民や都市住民に向けての広報

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

都市住民や地元住民のを対象に、街と人と森との繋がりを伝え、青梅市内の森林・林業に対する意欲が高まり、森林資源の有効活用が図れた。

9 目標達成

事業の目標：市内山林を活用しながら、参加者、スタッフ一同、森林資源に触れあい、体験活動を通じ、都市住民と地元住民との相互交流を図るとともに、森林資源を使ってできた作品（テーブル・ベンチ等）を活用していくことを目標とする。

目標の達成具合：市内山林を活用しながら、参加者、スタッフ一同、森林資源にふれあい、体験活動を通じ、都市住民と地域住民との相互交流ができた。また森林資源（間伐材）を使ってできた作品（丸太ピクニックテーブル×2セット）も出来上がり、森林所有者の許可の元、山林内に設置ができた。

10 事業の実施内容

●6/1(金)以降より、青梅市農林水産課と3世代先につなげる里山生活協議会（※以下略称：3世代里山協議会）で、森林資源の利活用できる山林の選定、資料の確認、利用許可の申請、承認。

●7/22(日) 8～9月以降に予定する第1回目のイベント実施に向けた準備
青梅市成木4丁目の山林（※以下 あまがさすの森）で、山林の調査、危険木などの除去、小川の清掃を行った。

※スタッフ3名



●9/17(月) 第1回目のイベント開催

あまがさすの森にて、森林資源を活用するために必要な森や木の見方、手入れの方法（除間伐）などを実施した。

※総勢12名（参加者4名／スタッフ5名／講師1名／農林水産課2名）



※チラシイメージ写真より



●10/21(日) 第2回目のイベント実施に向けた準備

あまがさすの森にて、スタッフメンバーで枯れ木や、危険木の除去を行った。

※スタッフ3名



● 11/23(金) 第2回目のイベント開催

あまがさすの森にて、参加者ともに青梅幼稚園の園児保護者、保育士も交え、雑木林の手入れ（除間伐）を実施した。また第1回目で間伐した木を丸太に造材し作品（丸太ピクニックテーブル×2セット）にするため、広場まで運び出しました。

※総勢 40名（参加者 32名／スタッフ 5名／講師 1名／農林水産課 2名）



※チラシイメージ写真より



● 1/20(日) 第3回目のイベント実施に向けた準備

あまがさすの森にて、運び出した丸太から作品（丸太ピクニックテーブル×2セット）をつくるにあたり、皮むきや骨組みの下準備を行った。

※スタッフ 3名（他講師と体験希望者）



● 3/17(日) 第3回目のイベント開催

あまがさすの森にて、第1回目、第2回目で、間伐、運び出した丸太を利用してピクニックテーブルを参加者とともに2セットを作成した。

また、うち1セットは、あまがさすの森の沢すじに、もう1セットは、尾根すじに、設置した。

※総勢 21 名（参加者 13 名／スタッフ 5 名／講師 1 名／農林水産課 2 名）



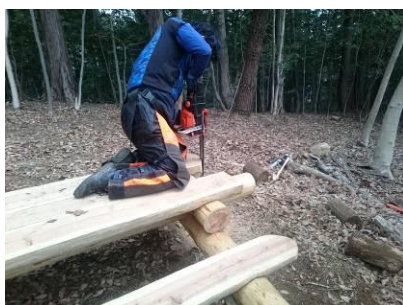
レッスン③ (3/3回)

レッスン①②で間伐・搬出した丸太を利用し、明るくなった森の中でテーブル・ベンチづくりを、経験者と一緒にDIYします。

※完成品は、市内施設に配置予定。
※悪天時は、室内で座学講習、木工作を予定。

The slide features a green background with a map of the area in the top left, a photo of logs on the left, and a photo of a picnic table on the right, connected by a white arrow. Text is centered on the right side.

※チラシイメージ写真より



11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	4	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
(7)事業実施は円滑になされた	4	3
(8)設定した目標が達成された	4	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 今回のイベントでは、天候に恵まれ屋外でイベントが開催ができたが、雨天時のプログラムを考えると、施設が隣接している山林での、イベント実施が望ましい。
（案：隣接する自治会館、空き家、小中学校等の利用）
- 山林をフィールドにする場合、森林所有者からの情報提供や境界調査、隣接森林所有者への挨拶が事前に必要である。
（案：青梅市内の森林所有者情報の集約化と境界情報の集約化）
- 今後、このような森林の魅力を伝えたり感じたりする企画は、増える傾向にあると思うが、経験者、指導者、行政職員が不足している。
（案：指導者育成、地域林政アドバイザーの活用など）

13 その他

本事業を通じ、以下 3 つの動きが生じた。

- ① あまがさすの森、近隣住民との交流により、山林の利用について、承諾いただける方が増えた。
- ② イベント以外にも、様々な人たちが、あまがさすの森を訪れ、森林空間の利用を始めた。青梅幼稚園や成木保育園、子育て中のママたちによる、幼児森林体験（森のようちえん）の場として利用されるようになった。
- ③ 東京都小学校社会科教育研究会の教職員をはじめとする方々が、小学 5 年生の社会科の授業「わたしたちの生活と森林（小単元名）」の授業内容の作成のため、都教職員 15 名程が、あまがさすの森を訪れた。普段あまり関わることのできない人たちとの交流ができた。また 2/22 金には、小金井市立東小学校で行われた研究発表会に招かれた。青梅市内でも森林教育に対してもっと興味を持っていただく必要性を感じた。



以上